

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4075100273		
法人名	竹井不動産 有限会社		
事業所名	グループホーム ひまわり 本館		
所在地	〒811-4203 福岡県遠賀郡岡垣町内浦955-1	Tel 093-282-7901	
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果確定日	平成 22年 10月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL093-582-0294	
訪問調査日	平成22年 9月 28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

5名の方が5年以上継続して入居しておられます、そのうち2名の方は90代です。日々の健康管理に気をつけ、かかりつけ医との協力・情報交換をおこなうと共に職員それぞれが常に新しい知識を身につけようと努力しています。認知症の重度化に伴い集団活動や趣味活動に参加する機会が減ってきていますが、それぞれの状態に合わせ出来る事・出来ない事・したい事を見極めそれが達成できるように職員一丸となって知恵を出し合っています。軽度の認知症の方には積極的に外出や外食の機会を持てるようにしています。一部の利用者は認知症デイケアを利用し社会性の確保とメリハリの有る生活を送っていただいています

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホーム「ひまわり」は、さくらの名所、成田山不動寺の近くにあり、響灘、三里松原を眼下に、緑豊かな自然に囲まれ、季節を五感で感じることが出来る環境である。家庭的な雰囲気のある玄關から、広々とした吹き抜けの居間では、利用者と職員が、趣味の草木染め、陶芸、塗り絵、習字等に取組み、活き活きとした暮らしぶりである。職員は買い物、調理、散歩、外食、園芸等を、利用者の生活リハビリとして取り入れ、心身機能の維持、向上を目指している。また、散歩コースの見晴らしの良い場所に、ベンチを置き、利用者が座って眺める景色は、和やかで、家族からの評判も高いものがある。開設して、7年、地域から「ひまわり」に対する信頼も深まり、相談や見学も増え、地域密着型グループホームとして、今後が期待される「ひまわり」である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が見やすい場所に理念を掲示している。 日々のケアに生かしている。	管理者と職員は、ホームの理念を基に、利用者一人ひとりの能力に応じた自立支援と、明るく笑いのある雰囲気作りを心がけ、利用者に住みなれた地域の中で元気に過ごしてもらうための工夫をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際にゴミ袋を持参し地域のゴミ拾いをしながら歩いている。 地域の祭りや敬老会などの送迎などを協力している。	運営推進会議のメンバーである地区区長、民生委員等から地域行事の情報や案内を頂き、出来る限り参加、協力し、交流を心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岡垣町社会福祉協議会と連携し地域の集会などに参加し場合により講師の派遣をしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表と連携し、地域の防災組織に組み込まれている。	会議は2ヶ月毎に行われ、会議の中で地区区長より消火訓練の合同開催について案内があったり、家族の参加が多く、家族からの要望なども積極的に出され、それらの情報、意見をサービスの向上に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の福祉課担当者からは電話やFAXで様々な研修や講演の情報提供をいただいている。 岡垣町社会福祉協議会と連携し講師の派遣も行っている。	「在宅介護者の集い」「認知症についての講話と意見交換」等の内容で、管理者が地域に出向き話をする等、行政との協働で積極的に地域に働きかけをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護について十分に理解を深め、緊急時であっても創意工夫し短期間の身体拘束であるよう努めている。	身体拘束廃止についてのマニュアルに基づいて、管理者、職員で何度も話し合い、理解を深め、共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の重要性を独自に学習し、職員や利用者家族とのコミュニケーションを通して、介護のストレスや不安感を感じ取るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学習する機会を持ち、職員個々が必要なケースを見極め助言できるようにしているが、実際に活用はされていない	現在、権利擁護に関する制度の該当者はいないが、制度に関するパンフレット、資料を準備し、勉強会を行い、必要な時に利用者、家族に説明が出来るよう準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書および重要事項説明書を基に十分な説明をおこない、しっかりと理解をいただき署名捺印していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の目立つところに『ご意見箱』を設けているが、投書にて意見が寄せられたことは無い。 意見や要望は職員が直接受け付けることが多く個人の問題以外は運営推進会議や運営報告書で伝達する用意がある。	玄関に意見箱を設置している。意見や要望は、家族の来訪時にコミュニケーションを図りながら聴いたり、また、家族連絡ノートを活用し、そこで出された意見は運営に反映するように努めている。	運営推進会議には、家族の参加が多いので、会議終了後、家族の交流会を開催し、少しずつ家族同士の親睦と信頼関係を築きながら、ホームの運営に繋げることが望まれる。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回全体会議を実施、毎月一回運営会議を開催して事業者と職員の意見交換を実施している。	管理者は、個人的に職員の意見や提案を聴くよう努めている。また、リーダー会議、ユニット会議では、職員から活発な意見が出され、その意見を反映できるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や性質を考慮して職員配置している。労働時間は職員の希望に合うように配慮している。 スキルによる給与改定については今後の課題としている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	十分に配慮している。	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢で区別することはなく、その人の人間性を重視している。また、事業所で働く職員については、勤務のローテーションの希望を出来るだけ叶えるようにし、職場環境を整え、長く勤められるよう支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権意識を高める標語を掲示し、常に意識を持って業務にあっている	職員一人ひとりが、目標として掲げた標語を玄関に掲示すると共に、内部研修で話し合うなど、人権に関する意識を高めている。	人権研修は実施出来ているが、研修の実施記録の整備が望まれる。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時にはそれぞれの技量に沿った研修期間を設け、専門知識を深めるための勉強会も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡垣町福祉施設連絡協議会に参加し、講習や交流を持っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、入居予定者の思いや意向を聞き入れ入居直後の不安感の軽減をはかるようにしている。 出来るだけ要望を受け入れるようにしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、入居者にとっての家族や家の有り方について理解を深めてもらい、協力体制を築いている。 出来るだけ要望を受け入れ安心してサービスの利用をしてもらっている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談が有った時は、他の医療・介護サービス利用の有無を確認し、担当者とサービスの継続も含め相談している。 必要なときは岡垣町の高齢者相談センターと連携している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を与えていると言う立場にならないように注意し、掃除や片付けなど入居者自身で出来ることは自分でしてもらっている。 自己判断が難しい方でも見守り助言をおこなっている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の面談で、入居者にとっての家族や家の有り方を理解していただき、それを利用することで安心してホームでの生活が継続できることを説明している。 近況報告書にて毎月状況を報告している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間を制約していない。また、外出・外泊は入居者の状況に応じて随時出来るようにしている	利用者の希望を聴き、家族の協力を得ながら、昔住んでいた家を訪ねるなど、馴染みの場、本人が大切に思っている人との関係が途切れてしまわないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	聴力が弱い利用者にはスタッフが談笑の間に入りコミュニケーションの橋渡しをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所した場合でも洗濯やその後の施設変更などの相談を受けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ希望に沿うような介護計画を立て、それに則ったケアを実施している	職員は、利用者の日常の暮らしの中で、利用者の気持ちに寄り添いながら、希望や意向をキャッチできるよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た情報と、日々の暮らしの中で得られた情報を組み合わせ、利用者へのサービス提供に生かしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や入居前に利用していた介護サービスから情報を集め、日々の観察を生かし状態把握につとめている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人を含め、介護にかかわるスタッフからの様々な意見を取り入れ工夫し作成している	本人や家族の希望を聴き、関係者間で気づきや意見を出し合い、それらを反映しながら介護計画を作成している。計画の見直しは3ヶ月毎に行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護状態に変化が有った時はそのつど介護計画を見直している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一部の利用者には認知症デイケアの利用を促し、ホームの中だけの生活ではなく社会性やメリハリの有る生活を得られるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元民生委員や自治会の代表に運営推進会議へ参加を委託している 敬老祝賀会などの大規模な行事には地区の公民館を活用している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に定期的を受診できるように、介護スタッフが同行している かかりつけ医の往診も受け付けている	利用者一人ひとりの希望にそって、入居前からのかかりつけ医の受診を支援し、利用者の情報を共有し、安心して適切な医療が受けられるよう、支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は常勤していないが、協力病院の看護師の訪問を受け入れたり、気安く相談が出来るように日頃から連携を持っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室と頻りに連絡を取り、入退院や初診の相談を常におこなっている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を、共有し、家族や職員で理解を深め、訪問看護ステーションやかかりつけ医との連携が取れる準備がある いまだホーム内で終末期を迎えたケースは無い	重度化や終末期のあり方について検討中である。	ホームで出来ること、出来ないことの内容を明記した看取りの指針を作成し、利用者、家族と繰り返し話し合い、関係者で方針を共有していくことが望まれる。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員で救急救命教習を受講している		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災組織に加わっている 非常災害時の連絡先として近隣の家庭を設定している	消防署の協力で避難訓練を行い、地域の防災組織に参加している。災害時に備えて、近隣の家に協力を呼びかけている。	地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練の実施と、災害時に備えた、非常食、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症高齢者の人権尊重について深く学習し、認知症の周辺症状にそった声かけをしている	職員は、利用者一人ひとりの思いや意向を尊重し、利用者の誇りを傷つけないよう優しく思いやりを持って接している。毎日居室で日記をつけられる利用者もいて、その人らしさが尊重され、プライバシーが守られていることが伺える。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えを選んだり、誕生会の外出先を利用者と介護者が話し合って決めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の決まりは有るが、利用者個々のペースに合わせ生活できるように配慮している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事のときだけでなく、日常生活の中で季節や時間に合わせた格好が出来るように助言・援助をしている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器や盛り付けを工夫している。 状況により盛り付けの手伝いもお願いしている。	野菜中心の美味しい食事で、利用者の好みや力に合わせて、調理、下膳などを職員と一緒にやっている。利用者と職員が話し、笑い合いながらの賑やかな食事風景である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分補給量を記録し、自力摂取が難しい利用者には介助をしている。 自立している利用者にも頻りに声かけをし、新聞記事などを利用して水分補給の大切さを感じてもらっている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状況に応じた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態や頻度を一元的に管理し、出来るだけトイレで排泄できるように注意している	利用者の排泄チェック表を利用し、利用者一人ひとりのリズムを掴み、タイミングをみて誘導し、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関と協力し、薬に頼らず規則正しい生活を送っていただくことで便秘が予防できるよう努めている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	平日に限られるが日中の好きな時間に入れるよう工夫している、夏場は出来るだけ回数多く入れるようシャワーなどを活用している 冬場は足浴なども活用している	入浴は基本的には週3回だが、利用者の、希望に出来るだけ添えるようにし、平日は好きな時間に入れるよう支援している。入浴を拒否される方に対しては、時間をかけてお話ししながら入っていただけるよう努力している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室がゆっくりと寛げる場所になるように配慮している。 夜間の睡眠状況や体調を考慮して、穏やかな声かけにより臥床を促している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬ファイルを作成し管理している。 介護スタッフは個々の診療状況や病状を把握できるよう受診記録を活用している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力を見極められるようにして、それぞれの力が発揮できるようにしている。 散歩・習字・草木染・カラオケ・軽運動・個々の誕生会を実施している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出や、誕生日会などはその当事者や他の入居者と話し合っ希望に沿うよう工夫している	季節の花や海を見に出かける等のドライブが利用者の大きな楽しみとなっている。また、誕生日会での外食、日常的な散歩、買物など、家族にも声をかけながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じ対応している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節によって家族や知人に手紙を出せるよう、習字の時間や余暇活動を生かしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁は珪藻土を使い臭気や湿度の調整をしている、暖かく穏やかな雰囲気照明を使い華美にならないようにしている 季節ごとの壁面飾りをしたり、わかりやすいカレンダーを掲示している	吹き抜けの高い窓からは陽光が降り注ぎ、明るく開放的な居間では利用者がおしゃべりしながらタオルをたたんでいる。新館の玄関前にはベンチが置かれ、利用者が腰掛けて涼んだり、鳥の声、虫の声を聴きながら談笑できる居場所となっている。また、折り紙で手作りされたひまわり、トンボ等が飾られ、季節感が溢れている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを適宜に配置し、ゆっくりと過ごせるようにしている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真を室内に貼ったり、使い慣れた家具の持込を促している	ダンスや椅子など、利用者の使い慣れた家具を持ち込んでもらい、壁には賞状、写真、習字の作品など、思い思いに飾られ、利用者が居心地良く過ごせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	花瓶や入居者の作品の展示方法を工夫し安全に移動できるようにしている 状況に応じ手すりを増設している		